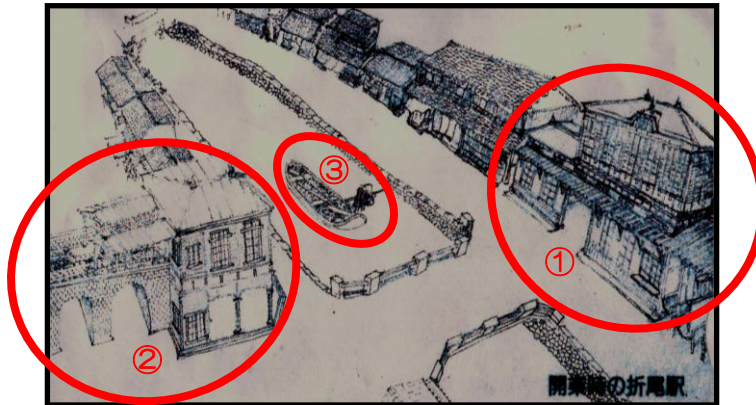


当会は、北九州市の歴史遺産を活かした『北九州市レトロ』を創り、北九州市を、日本を代表する観光地にしようと活動をしています。

『北九州市レトロ』を創るためには、東の玄関口「門司港レトロ」、「若松バンド」地域などと共に、西の玄関口にある、折尾のシンボル「折尾駅舎」、近代化産業遺産の「堀川運河」、「赤煉瓦高架橋」を活かして『折尾レトロ』を創ることが重要だと考えます。

折尾の街は、戦火を免れ、大正期や昭和期の街並み、歴史遺産が数多く残っています。「折尾地区総合整備事業」においても「伝統と新しさの融合」を図る事が大切だと考え、次の4つを、北九州市に陳情しました。(11月24日)



【①「折尾駅舎（中央2階建て部分）」を「仮改札口」として保存活用する】

「折尾駅」は、「日本最古の立体交差駅」です。「折尾駅舎の形」は、筑豊本線の中間側が1階建て、鹿児島本線に隣接する側が2階建てになっており、このアンバランスな形こそが「立体交差駅」であることを証明する、『日本唯一』の駅舎です。

現在、「折尾駅舎」は解体が予定され、一部の部材が、将来、レプリカで再生するために、「折尾出張所」に保管されることになっています。

【②「市民トイレのデザイン」を、「赤煉瓦アーチ高架橋」や「折尾電停の駅舎」など、当初の9連のアーチ高架橋をイメージできるものにする】

西鉄電車ビル隣接の高架橋3連は取り壊され、その跡地は、「市民トイレ」と「駐車場」になります。

【③「堀川運河」に「五平太船」のオブジェを設置する】

「堀川運河」は、自然に流れる河川と違い、人工的に造られた河川で、189年の歳月をかけて掘られた『運河』であり、駅前に流れる運河は、日本唯一です。筑豊の石炭を「五平太船」で八幡製鐵所に運び、日本の近代化産業の発展に寄与したことで「近代化産業遺産」に認定されました。

【④「折尾レトロ」の存在意義についての広報をする】

折尾は、交通の要所になり「遠賀の都」として繁栄しました。高齢者にとっては、昔を懐かしむと共に、癒しの空間になります。

将来を担う子供達には、歴史が身近に感じられ、歴史や文化、先人の知恵や想いを知ってもらい、生きた教科書的な街になります。

至急

要望書送付に、協力して下さい！

『「折尾駅舎」を「仮改札口」として活用して下さい。』という旨の、要望書を送って下さい。

- ◆ 北九州市長への手紙 <https://www.city.kitakyushu.jp/page/form/form-e-6.html>
北九州市役所 〒803-8501 小倉北区内1-1 電話 582-2127
- ◆ 九州旅客鉄道株式会社（代表取締役：唐池恒二）
〒812-8566 福岡市博多区博多駅前3-25-21 電話：092-474-2541